企画展示のご案内

2026（令和８）年は、1946（昭和 21）年４月に女性が初めて選挙権・被選挙権を行使して 80 年に当たります。今期は**「女性と議会政治のあゆみ」**と題して企画展示を行っています。第一期〈通史編〉、第二期〈人物編〉と題して開催してきましたところ、好評につき、第三期を新たに設け〈名言編〉として、令和８年９月１日～12 月 27 日まで開催しています。

女性と議会政治をめぐっては、これまで多くの人物によって、様々な言葉が残されてきました。それぞれの時代や立場によって、その内容も表現も異なります。第三期では、そうした数多くの言葉の中から６人の人物を取り上げ、それぞれが残した言葉を紹介いたします。

今回紹介する言葉は、女性の政治参加をはじめ、政治への向き合い方、社会の在り方など、多岐にわたる事柄について語られたものです。一つひとつの言葉からは、政治や社会をめぐる、それぞれの人物の考えや思いをうかがうことができます。

言葉は、発せられた時代を映すとともに、時を経て読み返すことで、新たな意味をもって受け止められることがあります。６人の言葉に触れることで、女性と議会政治をめぐる歩みと、それぞれの時代における政治や社会に対する考え方の一端をご覧いただければと思います。

皆様の心に残り、お持ち帰りいただくのは、どの言葉でしょうか。

なお、本展で紹介するもののほかにも、女性の政治参加に関わる人物の印象に残る言葉をご存じでしたら、是非お聞かせください。会場にアンケートをご用意しています。お寄せいただいた内容は、今後の展示を企画する際の参考とさせていただきます。

皆様のご来館を心よりお待ちしております。

長きにわたり女性の地位向上に努めた平塚らいてうの名言も紹介しています。

（写真出典：国立国会図書館）

憲政記念館所蔵資料のご紹介　～秋といえば～

今回は「〇〇の秋」にかけて政治家のエピソードと資料の紹介をします。

【食欲の秋】

食物は生命の根源であり、その意味においては人の言動も食がもたらすものであると言えるでしょう。超人的な活動をする政治家は、食欲もまた驚異的なものでした。

浅沼稲次郎
（あさぬま・いねじろう）
1898年（明治31）～1960年（昭和35）
元日本社会党委員長。その行動力から「人間機関車」の異名を取った。

エピソード

ある時浅沼の遊説に新聞記者が随行しました。昼食に用意されたカツ丼はどう見てもいる人の倍の数が並んでいます。

いぶかしんだ記者が「ヌマさん（浅沼のこと）、ほかに大勢来るんですか？」と聞くと、浅沼は「えっ、君ら一つで足りるのかい？」。100 キロ近いこの巨漢はカツ丼２杯を難なく平らげたとのこと。御年 61 歳の出来事でありました。

普段は新橋駅裏の焼き鳥屋か吾妻橋のビアホールで１，２杯あおる陽気な酒だったそうです。どんな人にも同行の記者を「僕の友人」と紹介するので、別の日に挨拶されてまごついたとか。

浅沼稲次郎のカバン。「演説百姓」の旅の友です。

田中角栄
（たなか・かくえい）
1918 年（大正７）～1993 年（平成５）
元内閣総理大臣。「コンピュータ付きブルドーザ」「今太閤」などと称された。

エピソード

食事の逸話ならこの人を差し置いてはいけないでしょう。選挙期間中、田中が昼に食べるのは、母親が作った大きな握り飯。しょっぱい塩引き鮭一切れをがっちりご飯で包み込み、海苔を幾重にも巻いたものでした。間口も奥行きも大きい口の田中にかかれば、子どもの頭ほどの握り飯もあっという間に胃袋に収まってしまったのだそうです。

田中いわく、「選挙中に料理屋でお膳を並べて飯を食う奴は落ちる」。選挙の神様といわれた人物ならではの至言ではないでしょうか。

「和風喜気相随う」。色紙を見た人の気持ちを和ませたい。田中の思いやりが目に浮かぶようです。

【スポーツの秋】

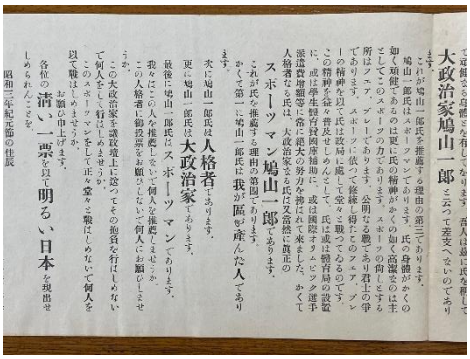
スポーツ選手が政治家を志すことは、今では普通のことです。片やひょんなことからスポーツの虜になった政治家がいたとしたら…。

鳩山一郎
（はとやま・いちろう）
1883 年（明治 16）～1959 年（昭和 34）
元内閣総理大臣。弁護士。政治家一家で知られる。

エピソード

子どもの頃から身体の弱かった鳩山に対し、しきりにゴルフを勧めたのは弟の秀夫でした。昭和の初めに立憲政友会幹事長という激務に追われ、相当疲れていたのでしょう。見るに見かねた弟がゴルフ倶楽部の入会金を払い、道具一式を買い揃え、練習はプロに預けて半強制的にゴルフを始めさせました。すると鳩山はメキメキと腕をあげ、ゴルフの本場へ渡航してプレーを楽しむまでになったそうです。すっかりゴルフの虫になった鳩山は、政敵から「ゴルフ党」とからかわれたという話も。

その鳩山が 1932 年（昭和７）、文部大臣に就任するとスポーツの効用を懇々と説くのでした。これには青少年への思想善導の一面もあったわけですが、スポーツの持つ明朗さ、快活さ、公正さは、鳩山本人のイメージづくりにも一役買っていたようです。



大政治家鳩山一郎

スポーツマン鳩山一郎

選挙推薦状の一部。「スポーツマン鳩山」のイメージは、有権者の「清い一票」と将来の「明るい日本」に結びついています。

【読書の秋】

読書が趣味という方も多いことでしょう。吉田茂は捕物帳を読むだけで批判を浴びましたが、息抜きもほしいものです。

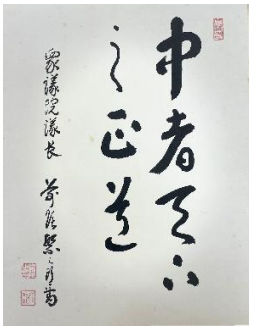
前尾繁三郎
（まえお・しげさぶろう）
1905 年（明治 38）～1981 年（昭和 56）
元衆議院議長。
椎名悦三郎、灘尾弘吉とともに「三賢人」と呼ばれた。

エピソード

政界きっての読書家といえば前尾繁三郎です。長年国会内で書店を営んだ幡場益（はたば・すすむ）さんの話では、月の書籍代が 400～500 万円だったとか。

ご遺族が地元の宮津市に寄贈した図書の冊数は約 35,000 冊だったといわれています。さらに図書館の建設費も寄贈されたという…。

確かに本の置き場は困るもの。前尾は都内のマンションを借りて書庫代わりに使っていたそうです。電子書籍のない時代の苦労がしのばれます。



「中は天下の正道」。万巻の書を読破した人物が「中庸」を揮毫することに言葉の重みを感じさせます。

【参考文献】
早坂茂三『鈍牛にも角がある』集英社、平成９年
『驀進』日本社会党機関紙局、昭和 36 年
早坂茂三『オヤジとわたし』集英社、平成５年
早瀬利之『偉人たちのゴルフ』双葉社、平成 25 年
「政ひと　国会内の書店主」『読売新聞』平成 26 年７月６日付
田中太一郎『前尾繁三郎先生のこころ』昭和 59 年

憲政記念館　活動報告

１．ギャラリートーク
「女性と議会政治のあゆみ」第二期〈人物編〉

（概観）

７月 23 日（木）、企画展示「女性と議会政治のあゆみ」第二期〈人物編〉について、来館者の皆様のご理解を一層深めていただくことを目的に、当館学芸員によるギャラリートーク（第２回）を開催しました。

今回は、前回寄せられたご意見を踏まえ、事前見学時間を設け、参加者全員が着席できる観覧環境を整えた上で実施し、参加された皆様には関連年表等の各種資料をお配りしました。

（女性政治家の紹介例）

しゃもじとエプロンを旗印に掲げ女性の日常生活の中に政治を見出そうとした奥むめお、女性初の政党党首となり後に女性初の衆議院議長に選出された土井たか子、女性初の内閣総理大臣として衆参両院において指名、選出された高市早苗議員をはじめ、主に戦後活躍した女性政治家 10 名にスポットを当て、多角的な視点から解説が行われました。

土井議長にまつわる出来事では、衆議院議長時代にキューバのカストロ国家評議会議長と会見した際、公式の場では常に軍服を着用していたカストロが「レディに会うから」と背広姿で現れたというエピソードなどが紹介されました。

高市議員本人が記名した内閣総理大臣指名選挙の投票用紙の解説では、議院内閣制の意義にも言及がなされ、参加者は真剣に聞き入っておられました。

（質疑応答、第三期企画展示の開催決定）

質疑応答では、女性参政権実現の前後における時代背景の変化、当時の国政選挙で女性が立候補・当選しやすかったのは衆参どちらか、平塚らいてう等による雑誌『青鞜』が閲覧できる施設、また、当時の女性がおかれた社会の矛盾を感じた、など多くのご質問、ご感想をいただきました。

なお、「女性と議会政治のあゆみ」展は、当初二期構成（通史編、人物編）を予定しておりましたが、マスコミにも多く取り上げられるなど好評を博しており（※）、９月以降も引き続き第三期を開催する運びとなった旨をお伝えし、歓迎の声をいただきました。

（※）中國新聞デジタル（R8.4.3）、
朝日新聞（R8.5.25）、
日本海新聞（R8.7.18）
共同通信ニュースサイト（R8.5.17）ほか

（皆様からのご意見）

アンケートでは、首班指名投票用紙の実物が興味深かった、説明がわかりやすく親しみが持てた、憲政記念館でしかできない秀逸な企画であった、などのコメントをいただきました。

一方で、女性運動に関する年表があればよかった、憲政記念館の広報の強化を望む、などのご意見もいただきました。

２．令和８年度 こども霞が関見学デー
「議会へのトビラ」へようこそ！
ー憲政記念館と国会議事堂を満喫しようー

（概観）

７月 29 日（水）及び 30 日（木）の両日、文部科学省が主催する「こども霞が関見学デー」の衆議院プログラムを実施しました。

今年は、小学校高学年を対象とした、(1) 憲政記念館体験学習、(2) 国会議事堂特別参観、のパッケージツアーを企画したところ、２日間で 29 家族、計 69 名が参加されました。

衆議院憲政記念館に集合（２Ｆ入口）

(1) 憲政記念館体験学習

憲政記念館では、議会制民主主義の発展や普通選挙実現の歴史を学びながら、未来の有権者である小学生の皆さんに、「話し合いで国の政治を決めるのは、国民一人ひとり」であることを実感していただくプログラムを実施しました。

～ 憲政記念館が伝えたいこと ～
この国の将来を決めるには、国民一人ひとりの政治参加が不可欠
18 歳になったら自分の一票を大切にしよう！

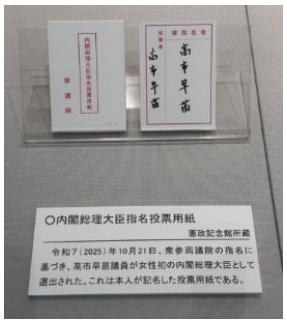
憲政プラザにて

① 憲政の歩みコーナー

憲政の歩みコーナーでは、「五箇条の御誓文」により、「話し合いによる政治」が国づくりの基本とされたこと、時代とともに話し合いに参加できる人が広がり、今からちょうど 80 年前、女性が初めて参政権を行使したこと、などの歴史をご紹介しました。

憲政の歩みコーナーにて

また、内閣総理大臣指名選挙の投票用紙の実物をご覧いただき、主権者である国民に選出された国会議員が総理大臣を指名し、国民の信託を受けて国政を担う仕組みの意味についてご家族で考えていただきました。



内閣総理大臣指名投票用紙

② 議場体験コーナー

衆議院本会議場を模して作られた議場体験コーナー（８頁参照）では、特に重要な議案の採決で用いられる「記名投票」の体験をしていただきました。

参加者は各自の氏名標が設置された「議席」に着席し、仮の議案「16 歳未満の者の SNS の利用を禁止する法律案」について、「氏名点呼」に応じ演壇に上がり、賛成票（白い木札）又は反対票（青い木札）を投票しました。

両日とも大差で否決され小学生の SNS 利用率の高さを現す結果となりました。

議場体験コーナーで「記名投票」を体験

実際の記名投票で用いられる木札には、各議員の氏名が記されており、投票行動は会議録に記載されるため、国民が議員の考えをチェックしたり、次期国政選挙での参考とすることができることについて解説を行いました。

また、採決は話し合いで決める最後の場面であり、衆議院と参議院の採決の結果が一致すれば、国会の意思となり国のルール（法律）となることなどを説明すると、子どもたちが熱心にメモを取る様子が見受けられました。

参加者からは、採決の結果可否同数となった場合の対応や押しボタン方式を採用しない理由などのご質問がありました。

最後に、この後見学する国会議事堂は、今日憲政記念館で体験したことが実際に行われている場所であり、将来自分の一票がつながる場所であること、国会の主役は国民一人ひとりであることをお伝えし、一行は国会議事堂に向かいました。

(2) 国会議事堂特別参観

国会議事堂特別参観は衆議院ビジターセンターからスタートしました。

院内では、通常の参観ルート（本会議場、御休所、中央広間）に加え第一委員室の見学や議事堂内郵便投函筒へのハガキ投函を体験いただきました。

その後、議員食堂で休憩し、国会議事堂衆議院正玄関の噴泉前で記念写真を撮影し、全ての行程を終了しました。

後日実施したアンケートには多くの感想が寄せられました（後掲）。

これらの貴重なご意見を生かし、来年も皆様に喜んでいただけるプログラムを企画したいと思います。

（国会見学の様子）

本会議場を公衆席から見学

予算委員会等が開かれる第一委員室の見学

中央広間の見学

（上）衛視による説明

（右）ハガキ投函体験
（議事堂内郵便投函筒）

議員食堂で休憩、職員と懇談

こども見学デー 衆議院プログラム
＜皆様からいただいた主なご意見＞

- 「政治を動かしているのは国民」という言葉がとても心に響いた。
- 憲政記念館の体験学習では投票だけでなく議論する時間が欲しかった。
- 国会の裏側を支える人たちについてもっと知りたい、自分も国会職員になりたい。
- 第一委員室、議員食堂など普段は見学できない場所に入ることができ、感動した。
- 国会議員の話が聞きたい。
- 国会議事堂内郵便ポストのハガキ投函にワクワクした。
- 衛視さんの話がとても面白かった。
- 夏休みの宿題が完成した。
- 炎天下、議員宿舎バスでの移動に感謝。

３．令和８年 夏休み企画
「学ぼう！政治における女性の活躍」

憲政記念館では、毎年夏休み期間中、小中学生などのご来館を想定した夏休み企画を開催しております。

女性が初めて参政権を行使してから80 年目となる今年は、企画展示「女性と議会政治のあゆみ」を開催していることから、夏休み企画を「学ぼう！政治における女性の活躍」と題し、女性政治家の活躍を展示物の中から見つけるクイズ形式のワークシートを完成していただく内容としました。（開催期間：７月 17 日（金）～８月 27 日（木））。

また、議会制民主主義の歴史や今の国会と内閣の仕組みなど、憲政記念館で学んだ内容を更に知るための参考として「憲政記念館 調べもの学習のためのブックリスト」をお配りしました。

憲政記念館 調べもの学習のためのブックリスト

展示でみつけた疑問を本で調べてみよう！

レベル	タイトル・著者・出版社	内 容
★★	『選挙、誰に入れる？ちょっとでも良い未来を「選ぶ」ために知っておきたいこと』（宇野重規監修 Gakken）	税金、社会保障、給与、エネルギー、多様性、選挙のあり方など、ちょっとでも良い未来を「選ぶ」ために知っておいてほしい様々なテーマを、わかりやすく解説しています。
★	『話したくなる世界の選挙～世界の選挙をのぞいてみよう～』（太田雅幸著 清水書院）	世界の選挙をくらべてみると、日本の選挙との違いがわかります。
★★	『声をあげよう、社会は変えられる 子どもが政治参加する方法』（林大介監修 PHP）	子どもでも、大人と同じ主権者として意見を表明し、社会を変えられることを説くとともに、子どもでもできる政治参加の方法を紹介しています。
★★	『政治のしくみがよくわかる 国会のしごと大研究』(全5巻) ①国会ってなにをするところ？ ②日本と世界の国会の歴史 ③調べてみよう国会のしくみ ④選挙と国会議員というしごと ⑤国会という職場のいろいろ （福岡政行監修 岩崎書店）	国会とは何か、その歴史や仕組み、そこで働く国会議員や職員などについて、5分冊にわたって、写真やイラスト、図表も交え、小学校高学年から中学生向けにくわしく解説しています。
★★	『こどもよのなか塾 教室にもあった！身のまわりの政治』②政治（山下真一監修 理論社）	学校や家庭といった身近な場面での問題を解決していくことで、普段の日常生活と、選挙、国会、裁判所といった制度との関わりについて、理解を深めることができます。
★★	『よりよい未来をつくる主権者になろう！』（西野偉彦監修 小峰書店）	クラス、学校、家庭内で起きるさまざまな課題をもとに、社会のしくみやルール、集団の中での役割分担について考えていきます。
★★★	『政治のキホン100』（吉田文和著 岩波ジュニア新書）	見開き１話で、政治の概念から、国会や内閣の仕組み、政治の問題点まで、16 のテーマを丁寧に解説しています。（中高生向け）

★入門　★★もっと知りたい　★★★深く学びたい

来て、見て、触って！ ～憲政記念館 議場体験コーナーのご案内 ～

（議場体験コーナーとは）

議場体験コーナーは、衆議院本会議場を模した展示室で写真映えもする、憲政記念館の中でも特に人気の場所です。

現憲政記念館（代替施設）では、「議会へのトビラ」を理念に掲げ、『直感・体感・実感』をキーワードに、未来の有権者が主権者として求められる力を育成する主権者教育に取り組んでおりますが、それを実践する場所として、活用しております。

ステンドグラスや議席を再現した議場

（体験学習）

主権者教育プログラムは、施政方針演説や本会議での採決（起立採決、異議なし採決、記名投票）を体験し、国会の仕組み等を知っていただくもので、本年７月のこども霞が関見学デー 衆議院プログラムもここで行いました。（５頁参照）

記名投票の体験では、実際に本会議場で使われている「木札」と投票を計算するための「計量器」を用います。

木札

（手前）計量器

憲政記念館で本物に触れる体験を通じて国会を身近に感じ、主権者としての思いを再確認いただければ幸いです。

黄川田国務大臣ご訪問

８月 26 日（水）、黄川田仁志女性活躍担当大臣・内閣府特命担当大臣（男女共同参画）が憲政記念館を訪問されました。

大臣は、企画展示「女性と議会政治のあゆみ」第二期〈人物編〉をはじめ、常設展示や議場体験コーナー等を熱心にご覧になられました。

視察後、記者に対し「ガラスの天井を突き破った高市内閣総理大臣の誕生は、多くの女性に勇気を与えた。今後も政治における女性の活躍をより一層推進していきたい。」とコメントされました。

学芸員の説明を聴く黄川田大臣

【発　行　人】　中居　健吾
【編集責任者】　神薗　直子
【印刷・発行】　衆議院事務局　憲政記念館
〒100-0014　東京都千代田区永田町 1-8-1
TEL：03-3581-1651

本紙について、私的利用・引用等著作権法で認められた行為を除き、無断で改変・転載・複製を行うことはできません。引用される場合には出所を明示し、また、転載等を行う場合にはあらかじめ当館へご連絡ください。